

アニュアルレポート 2007

地理環境科学専攻 / 地理環境コース

首都大学東京
大学院都市環境科学研究科地理環境科学専攻
都市環境学部地理環境コース

目 次

1 地形・地質学研究室	1
1) スタッフ	
2) 研究概要	
3) 研究成果(2007年度)	
2 気候学研究室	8
1) スタッフ	
2) 研究概要	
3) 研究成果(2007年度)	
3 環境地理学研究室	18
1) スタッフ	
2) 研究概要	
3) 研究成果(2007年度)	
4 地理情報学研究室	22
1) スタッフ	
2) 研究概要	
3) 研究成果(2007年度)	
5 都市・人文地理学研究室	27
1) スタッフ	
2) 研究概要	
3) 研究成果(2007年度)	
6 特定学術研究	31
7 学位論文	34

1 地形・地質学研究室

1) スタッフ

山崎 晴雄 (やまざき はるお) 教授 / 理学博士
地形学, 第四紀学, 地震地質学

鈴木 毅彦 (すずき たけひこ) 准教授 / 博士 (理学)
地形学, 第四紀学, 火山学

2) 研究概要

地形・地質学研究室は、固体地球の表面(地表)と地殻における地球科学的な諸現象を研究対象としている。とくに現在および最近の地質時代(第四紀)の地形と地質の性格を理解し、その将来像を展望することを目標としている。このために過去から現在までの、以下に例を挙げる諸現象の強度と頻度や環境の変化、それに現在どのような作用が働いているか、などに焦点をあて、研究している。

最近行なっている主な研究テーマを挙げると次のとおりであり、日本をはじめ世界各地での野外観察・観測、あるいは室内での実験によって次のようなバラエティにとむ研究を行なっている。

1. 日本島とその周辺海域に広く堆積している火山灰に注目し、それを噴出した火山の認定、噴火の性質、時代、分布などを明らかにする。
2. 火山灰を広域的な時間指標層として、最近の百万年間、十万年間、一万年間、千年間の環境の変遷史(地形変化、気候・植生変化、海面変動、地殻変動など)を編む。
3. 日本や諸外国の沿岸地域の地形・地質学的資料をもとに第四紀海面変動と地盤運動に関するモデリングをおこない、より普遍的な海面変動史を明らかにする。
4. プレート境界域の第四紀地殻変動に注目し、その時間的変遷や地震発生様式からプレートの収斂・衝突過程の詳細を明らかにする。
5. 山崩れや洪水などの外作用による地形変化および火山活動・断層運動などの内作用による地形変化の研究を災害研究とも関連させておこなう。地形計測および土砂移動観測によって、山地および斜面の発達過程を明らかにする。

3) 研究成果 (2007 年度)

原著論文・展望論文(審査付きの論文)

Suzuki, T. 2008. Analysis of titanomagnetite within weathered middle Pleistocene KMT tephra and its

application for fluvial terrace chronology, Kanto Plain, central Japan. *Quaternary International* 178: 119-127.

Suzuki, T. 2007. Tephra studies on Quaternary explosive eruptions in the Japanese Islands. *The Quaternary Research* 46: 283-292.

小川富由・鈴木毅彦 2007. 建築物の耐震改修促進法改正と政策の展開. *地学雑誌* 116: 516-523.

河上俊郎・鈴木毅彦 2007. 耐震補強推進協議会による地域ぐるみの建物耐震化推進運動. *地学雑誌* 116: 536-541.

村田昌則・鈴木毅彦・中山俊雄・川島眞一・川合将文 2007. 武蔵野台地南東部地下における上総層群のテフクロノロジー. *地学雑誌* 116: 243-259.

植木岳雪 2007. 四国南東部, 加奈木崩れのせき止めによる谷埋め堆積物中の材の AMS 14C 年代. *日本地すべり学会誌* 44: 41-43.

植木岳雪 2007. 徳島県西部, 那賀川上流部における河成段丘の編年. *地理学評論* 81A: 25-40.

植木岳雪 2007. 飽和等温残留磁化をつけた溶岩試料を用いて岩石が磁石であることを視覚化する: 古地磁気, プレートテクトニクスの理解のために. *地学教育* 60: 187-188.

藤原弘和・佐藤慎司・白井正明・田島芳満 2007. 表層堆積物の分析に基づく天竜川・遠州灘流砂系の土砂動態の解明. 第54会海岸工学論文集: 591-595.

Tamura, I., Yamazaki, H. and Mizuno, K. 2008. Characteristics for the recognition of Pliocene and early Pleistocene marker tephtras in central Japan. *Quaternary International*, 178: 85-99.

その他の論文(査読なしの論文, 紀要・単行本の分担執筆を含む)

山崎晴雄 2007. 地層処分にとっての地質環境の長期安定性. *金属* 77: 1121-1125.

Yamazaki, H. and Sasaki, T. 2007. Uplift and Erosion: Potential impact on the geological environment. OECD NEA Web page. <http://www.nea.fr/download/manchester/>

鈴木毅彦 2007. 川がつくる地形—河川の地形学入門—. 菊地俊夫編「めぐろシティカレッジ叢書 8 川からひろがる世界—川の流りに刻まれた生活・自然・文化—」二宮書店, 69-76.

鈴木毅彦 2007. 川と防災—河川地形の改変と人々の営み—. 菊地俊夫編「めぐろシティカレッジ叢書 8 川からひろがる世界—川の流りに刻まれた生活・自然・文化—」二宮書店, 77-86.

鈴木毅彦 2007. 【コーヒーブレイク】多摩川のつくった地形をあるく・みる. 菊地俊夫編「めぐろシティカレッジ叢書 8 川からひろがる世界—川の流りに刻まれた生活・自然・文化—」二宮書店, 87-90.

植木岳雪 2007. 関東山地東縁, 青梅市成木崩壊地の地形, 堆積物の特徴と崩壊の発生時期の推定. *地質調査研究報告* 58: 253-259.

Shirai, M., Nishimura, M. and Yasuda, H. 2007. Descriptive evaluation of consolidated sedimentary rock structures with X-ray imaging: Examples from Site 1276 core. Proceedings of ODP, Scientific Results, Leg. 210 chapter111: 1-11.

田村糸子 2007. 高等学校における地学野外学習の現状と問題点. 地質ニュース 640: 20-24 .

田村糸子 2007. 野外学習を重視した授業「環境」の取り組み 平成 19 年度文部科学省科学技術理科大好きプラン サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(講 A-学 1084) 関東平野の大地の歴史ー身近な多摩地域から関東平野へ - 実践報告. 平成 19 年度 東京都立若葉総合高等学校研究紀要 3: 37-42 .

報告書

鈴木毅彦 2007 . テフラ (火山灰) 調査 . 矢板市埋蔵文化財調査報告第 6 集 高原山黒曜石原産地遺跡群剣ヶ峰地区遺跡平成 18 年度調査概報 : 14-16 , 栃木県矢板市教育委員会 .
植木岳雪・酒井 彰 2007 . 青梅地域の地質 . 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅) , 産業技術総合研究所地質総合センター , 189 p .

白井正明 2008 . 陸源物質 , 特に有機物の深海底への供給過程の研究 : メタンハイドレート鉱床形成に及ぼす影響と , 近年の人類活動の記録としての役割 . 海洋研究船による地球温暖化に係わる温室効果気体の海洋における収支の観測研究 中間報告書, 14 (印刷中) .

書評

鈴木毅彦 2007 . 西川 治著 : 地球人の地図思考 世界地図博物館創設を願って . 地学雑誌 116 : 215 .

その他の報文(技術レポート, 商業誌, 解説・雑録など)

鈴木毅彦・中林一樹・江口孝雄・笠原順三・小原一成・瀬野徹三・下川浩一 2007 . 特集号「首都圏直下型地震に備えて」はじめに . 地学雑誌 , 116 : 309-312 .

鈴木毅彦 2007 . 口絵 1 首都圏直下型地震とその被害予測 . 地学雑誌 116 .

高木秀雄・田村糸子 2007. 本当にこれで良いのか? 消えつつある高校「地学」. 週間科学新聞 4 月 13 日号

講演

- Yamazaki, H. and Sasaki, T. 2007. Uplift and Erosion: Potential impact on the geological environment. Integration Group for Safety Case (IGSC) Workshop “ Geosphere Stability ”, OECD/Nuclear Energy Agency(NEA). 2007.11. 英国マンチェスター
- Yamazaki, H. 2007. Quaternary tectonics in and around the onshore plate convergence boundary in central Japan. International Symposium on Quaternary Environmental Changes and Humans in Asia and the Western Pacific. Geological Survey of Japan Interim Report, No.42, 111-112. 2007.11. つくば
- 山崎晴雄. 2007. 地層処分にとっての地質環境の長期安定性 . 第 16 回東北大学素材工学研究懇談会、平成 19 年度ベースメタル研究ステーション、資源変換・再生研究センター合同シンポジウム、99-103. 2007.11. 仙台
- 山崎晴雄. 武蔵野が語る地球環境変化の歴史 関東平野の形成メカニズム 首都大学東京オープンユニバーシティ講義 . 2007. 5, 6. 飯田橋
- 山崎晴雄. 2007. 武蔵野の自然史 大地が語る地球環境変化 . 文科省 SPP (Science partnership program) 事業, 埼玉県立所沢高校, 2007. 6.10. 所沢
- 山崎晴雄. 2007. 関東平野の大地の歴史 身近な多摩地域から関東平野へ. 文科省 SPP (Science partnership program) 事業, 東京都立若葉総合高校 . 2007.10. 稲城
- 山崎晴雄. 2007. 神奈川の自然と災害 . 文科省 SSH (Super Science Highschool) 事業, 神奈川県立西湘高校「防災」, 2007.5. 小田原
- 山崎晴雄. 2008. 武蔵野の自然史 段丘が語る地球環境変化 . 東京都教育庁「理科授業改善のための研修会」東京都立日野高校, 2008.1. 日野
- 山崎晴雄. 2007. 活断層と地震防災. 新宿区主催防災講演会, 2007.12. 新宿
- 山崎晴雄. 2007. 地震の発生 (メカニズム) と地域の対応 近年の災害から学ぶ . 昭島市市民大学フォーラム公開講座, 2008.1. 昭島
- 山崎晴雄. 2008. 小平市の地盤と地震防災. 小平市主催防災講演会, 2008.1. 小平
- 山崎晴雄. 2007. 大磯丘陵の活断層と地震テクトニクス 国府津・松田断層とプレート運動 . 平塚市立博物館, 2007.8. 平塚
- 鈴木毅彦 2007 . 地図から地形の風景を読み解く , 地形の風景から地図を読む . めぐるシティカレッジ 地図と風景 - 地図と風景その密なる世界をさぐる第 2 回 , 4 月 , 東京 .
- 鈴木毅彦・村田昌則 2007 . 福島県会津地域を給源とする前期更新世に噴出した白河隈戸火砕流とそれに伴うテフラ . 日本地球惑星科学連合 2007 年大会予稿集 Q139-002(CD-ROM) , 5 月 , 千葉 .
- 鈴木毅彦 2007 . 武蔵野の自然史 ~ 身近な地形・地質の探究 ~ (野外実習) . 埼玉県立所沢高等学校サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP) 事業 , 7 月 , 埼玉 .
- 鈴木毅彦 2007 . 酸素同位体ステージ 3 のテフラについて . 日本第四紀学会研究委員会「酸素同位体ステージ 3 の考古学」準備会 , 7 月 , 東京 .
- 鈴木毅彦・村田昌則・大石雅之・山崎晴雄・中山俊雄・川島眞一・川合将文 2007 . 地下

- 地質調査による活断層の活動史復元—東京西部、立川断層の例—．南大沢キャンパス
産学交流会 2007 『都市の環境と生活の向上を目指して』, 7月, 東京．
- Suzuki, T., Murata, M., Nakayama, T. Kawashima, S. and Kawai, M. 2007. Tephrochronological
Study on Underground Quaternary Marine Strata in Tokyo Metropolitan Area, Japan.
Quaternary International, 167-168 Supplement: p. 406, August, Cairns.
- 鈴木毅彦 2007．第3回 自然の読み方 環境理解の基礎 (地形図の読み方と地形や地質の
基礎)．首都大学東京オープンユニバーシティ サポート・レンジャー養成講座5期,
8月, 東京．
- 鈴木毅彦 2007．茨城県のテフラ．茨城県立水戸第一高等学校サイエンス・パートナーシ
ップ・プロジェクト (SPP) 那珂台地のなりたち ”水戸一高のある台地の生い立ちを探
る”, 10月, 茨城．
- 鈴木毅彦 2007．奥多摩の地学 -日本の山岳での位置づけ-. 東京都サポート・レンジャー
研修会, 11月, 東京．
- Suzuki, T. and Murata, M. 2007. Studies on early Quaternary widespread tephtras derived from large
calderas located in the Northeast Japan Arc. International Symposium on Quaternary
Environmental Changes and Humans in Asia and the Western Pacific Abstracts Volume, 146,
November, Tsukuba.
- 鈴木毅彦・中林利郎・小川信正 2007．野外講座 伊豆大島火山 噴火とその歴史．首都
大学東京 オープンユニバーシティ講座, 11月, 伊豆大島．
- 寺田香奈子・鈴木毅彦 2007．ホルンブレンドの化学組成を用いたテフラ対比方法の検証．
日本第四紀学会講演要旨集 37: 118-119, 8月, 神戸．
- 梶 琢・山崎晴雄・徳山英一・加藤幸弘 2007．渡島大島の山体崩壊における海底地すべ
り地形．日本地球惑星合同連合 2007 年大会要旨集 Q139-001 (CD-ROM), 千葉．
- 梶 琢・生野静香・根元謙次・山崎晴雄 2007．駿河湾奥部大陸棚の地質構造．日本地球
惑星合同連合 2007 年大会要旨集 Q139-P009 (CD-ROM), 千葉．
- Kaji, T. Yamazaki, H. Tokuyama, H. and Kato, Y. 2007. Topography and geology of the submarine
landslide deposits by sector collapse of Oshima-Oshima island in the northern part of Japan.
Abstracts of The Journal of the International Union for Quaternary Research Vol167-168,
p199, July, Australia.
- Kaji, T. Yamazaki, H. and Kato, Y. 2007. 2007. Comparison of the submarine landslide by the sector
collapse of Oshima-Oshima island in the northern part of Japan with the submarine landslide of
off Kaimon volcano in the southern part of Japan. Abstracts of AGU Fall Meeting 2007,
NG41B-0517, p19, December, USA.
- Kaji, T. Yamazaki, H. Tokuyama, H. and Kato, Y. 2007. Comparison of the submarine landslide off
Kaimon volcano with the debris avalanche off Oshima-Oshima island with generated the
tsunami in Japan. Abstracts of Ocean Sciences Meeting 2008, March, USA.

- 村田昌則・鈴木毅彦 2007. 千葉県銚子地域屏風ヶ浦に分布する犬吠層群中の前期更新世テフラ対比に関する再検討. 日本地球惑星科学連合 2007 年大会予稿集 Q139-007(CD-ROM), 5 月, 千葉.
- 村田昌則・鈴木毅彦 2007. 東京都地下における第四紀前半のテフロクロノロジーと地質構造. 日本地質学会関東支部第 1 回研究発表会関東地方の地質講演資料集:54-57, 6 月, 東京.
- 八幡 啓・上條孝徳・畠山久・山崎晴雄 2007. 新潟県中越沖地震における柏崎市内の家屋被害分布とその要因. 日本第四紀学会講演要旨集 37 別冊: 20-21.
- 八幡 啓・上條孝徳・畠山久・中村優太・山崎晴雄 2007. 地形的要因からみた 2007 年新潟県中越沖地震の建物被害 柏崎市中心部を事例として. 2007 年日本地理学会秋季学術大会, 10 月, 熊本.
- 植木岳雪 2007. 関東平野西縁, 立川断層の後期鮮新世以降の活動史. 2007 年大会予稿集 Q139-006 (CD-ROM), 5 月, 千葉.
- 植木岳雪 2007. 関東平野西縁の丘陵を構成する鮮新～更新統の古地磁気層序. 2007 年大会予稿集 Q139-P003(CD-ROM), 5 月, 千葉.
- 植木岳雪 2007. 5 万分の 1 地質図幅「青梅」の概要と立川断層の鮮新世以降の活動. 日本地質学会関東支部第 1 回研究発表会「関東地方の地質」講演資料集: 58, 6 月, 東京.
- 植木岳雪 2007. 関東平野南西縁, 鮮新～更新統中津層群の古地磁気層序. 日本第四紀学会講演要旨集 37: 66-67, 8 月, 神戸.
- 白井正明・大村亜希子 2007. 紀伊半島沖熊野トラフ表層堆積物より見出されたタービダイトの成因. 日本地球惑星科学連合 2007 年大会予稿集 G120-004 (CD-ROM), 5 月, 千葉.
- 池原 研・芦寿一郎・入野智久・白井正明 2007. 竜洋海底谷から採取された海底堆積物コア中のタービダイトの対比と堆積間隔. 日本地球惑星科学連合 2007 年大会予稿集 G120-P003 (CD-ROM), 5 月, 千葉.
- Shirai, M. and Omura, A. 2007. Sand grains transport from river to deep marine revealed by OSL measurement technique. *Quaternary International*, 167/168 (supplement): p. 381, August, Cairns.
- Shirai, M., Liu, H., Tajima, Y. and Sato, S. 2007. Sand grains transport around river mouth revealed by OSL measurement technique. *Quaternary International*, 167/168 (supplement): p. 381, August, Cairns.
- 白井正明・劉海江・高川智博・田島芳満・佐藤慎司 2007. 露光確率分布から見た天竜川河口周辺における砂粒子の動態. 日本地質学会大 114 年学術大会講演要旨集: p. 209, 9 月, 札幌.
- 白井正明 2008. OSL 強度測定に基づく現世砂粒子の動態解析: 年代測定法以外の可能性. *ESR 応用計測*, 24: p. 35, 3 月, 奈良.
- 田村糸子・高木秀雄・山崎晴雄 2007. 千葉県銚子地域の犬吠層群から見出された含ざくろ石テフラ層 - 中津層群の含ざくろ石テフラ層 MK19 との対比とその意義 -. 日本地球惑

- 星科学連合 2007 年大会予稿集 Q139-05P (CD-ROM), 5 月, 千葉.
- 田村糸子・山崎晴雄・水野清秀 2007. 銚子地域犬吠層群最下部のテフラ層序と年代 - 東海層群の指標テフラ層との対比 - . 日本第四紀学会 2007 年大会講演要旨集, p.38-39, 8 月, 神戸.
- 田村糸子・高木秀雄・山崎晴雄 2007, 南関東の鮮新世ざくろ石テフラの対比と 2.5Ma 頃の丹沢の火山活動. 日本地質学会 114 年学術大会講演要旨集, p.73, 9 月, 札幌 .
- 水野清秀・田村糸子 2007, 関東に分布する上部鮮新統～下部鮮新統中の鍵火山灰層 - 特に中部山岳地域起源ガラス質テフラの識別 - . 日本地質学会関東支部 第 1 回研究発表会関東地方の地質講演資料集, p.52-53. 6 月, 東京.
- 大石雅之 2007. テフラ層序に基づく八ヶ岳火山北部の火山活動史. 日本地質学会関東支部 第 1 回研究発表会関東地方の地質講演資料集 : 14-17, 6 月, 東京.
- 大石雅之 2007. 浅間火山軽石流期テフラの分布・層序と噴火様式の再検討. 日本第四紀学会講演要旨集 37 : 114-115, 8 月, 神戸.
- Toshida, K., Tajima, Y., and Oishi, M. 2007. Correlation between Changes in Long Term Eruption Rate and Edifice Collapse, Magma Temperature, and Magma Geochemistry. Abstracts Volume, Cities on Volcanoes 5 Conference, p.126, November, Shimabara.

2 気候学研究室

1) スタッフ

三上 岳彦 (みかみ たけひこ) 教授 / 理学博士
都市気候・気候変動

松本 淳 (まつもと じゅん) 教授 / 博士 (理学)
モンスーン気候学・環境気候学

高橋 日出男 (たかはし ひでお) 教授 / 理学博士
都市気候・気候変動・降水現象に関する気候学

中野 智子 (なかの ともち) 助教 / 博士 (理学)
大気陸面相互作用・炭素循環・生物地球科学

2) 研究概要

気候学研究室では、都市・盆地といったマイクロスケールからグローバルスケールの気候変動に関することまで、様々なスケールにおける「気候形成」の理解を目指した研究を行っている。研究手法も多岐にわたり、現地での気象観測・観測資料の収集・気候データセットを用いた数値解析など、様々な手法を用い、気候の復元や気候形成のプロセス・メカニズムの理解に向けて取り組んでいる。本研究室で行われている研究としては、次のようなものがある。

- ・都市気候の研究 (ヒートアイランド・クールアイランドの観測と分析、都市型集中豪雨の解析等)
- ・気候変動 (歴史時代・観測時代) の研究
- ・古気象観測記録のデータベース化に関する研究
- ・アジアモンスーンの季節推移と気候変動の研究
- ・リモートセンシング・データ (ランドサット・ノアなど) を用いた気候の研究
- ・半乾燥地の草原生態系における二酸化炭素交換の観測
- ・半乾燥地域における気候と熱収支・水収支の研究

3) 研究成果 (2007 年度)

原著論文・展望論文 (査読付きの論文)

Malmgren, B.A., Hullugalla, R., Lindeberg, G. Inoue, Y., Hayashi, Y. and Mikami, T. 2007. Oscillatory

behavior of monsoon rainfall over Sri Lanka during the late 19th and 20th centuries and its relationships to SSTs in the Indian Ocean and ENSO. *Theoretical and Applied Climatology* 89: 115-125.

Inoue T. and Matsumoto, J. 2007. Abrupt climate changes observed in late August over central Japan between 1983 and 1984. *Journal of Climate* 20: 4957-4967.

He, J.-H., Sun, C.-H., Liu, Y.-Y., Matsumoto, J. and Li, W.-J. 2007. Seasonal Transition Features of Large-Scale Moisture Transport in the Asian-Australian Monsoon Region. *Advances in Atmospheric Sciences* 24: 1-14.

Murata, F., Hayashi, T., Matsumoto, J. and Asada, H. 2007. Rainfall on the Meghalaya plateau in northeastern India – one of the rainiest places in the world. *Natural Hazards* 42: 391-399.

Murata, F., Terao, T., Hayashi, T., Asada, H. and Matsumoto, J. 2008. Relationship between atmospheric conditions at Dhaka, Bangladesh, and rainfall at Cherrapunjee, India. *Natural Hazards* 44: 399-410.

Yokoi, S., Satomura, T. and Matsumoto, J. 2007. Climatological characteristics of the intraseasonal variation of precipitation over the Indochina Peninsula. *Journal of Climate* 20: 5301-5315.

Wu, P., Hara, M., Fudeyasu, H., Yamanaka, M. D., Matsumoto, J., Syamsudin, F., Sulistyowati, R. and Yusuf S. Djajadihardja, Y.S. 2007. The impact of trans-equatorial monsoon flow on the formation of repeated torrential rains over Java Island. *SOLA* 3: 93-96.

遠藤伸彦・松本 淳・山本奈美・福島あずさ・赤坂郁美 2007. 世界における降水量と降水特性の長期変化, *地学雑誌* 116: 824-825.

鈴木博人・中北英一・高橋日出男 2008. 降雨の空間代表性 —鉄道と気象庁の降水量データを用いた解析—. *土木学会水工学論文集* 52: 187-192.

中野智子・根本 学・篠田雅人 2007. 密閉式チャンバー法を用いた夜間の水蒸気フラックスの測定. *農業気象* 63: 103-107.

Zaiki, M. and Tsukahara, T. 2008. Meteorology on the Southern Frontier of Japan's Empire: Ogasawara Kazuo at Taihoku Imperial University. *East Asian Science, Technology and Society: An International Journal* doi: 10.1007/s12280-007-9010-9.

Grossman, M. and Zaiki, M. 2007. Reconstructing typhoon landfalls in Japan using historical documents: 1801-1830. *Papers of the applied geography conference* 30: 334-343.

Akasaka I., Morishima W., and Mikami T. 2007. Seasonal march and its spatial difference of rainfall in the Philippines. *International Journal of Climatology* 27: 715-725.

Hirano, J. and Mikami, T. 2007. Reconstruction of winter climate variations during the 19th century in Japan. *International Journal of Climatology* DOI: 10.1002/joc.1632.

その他の論文（査読なしの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む）

Mikami, T. 2007. Urban heat island phenomenon in Tokyo Metropolitan Area. In *Proceedings of 17th*

Convention of the International Council of Academies of Engineering and Technological Sciences. 75-78. Tokyo.

Mikami, T. 2007. Urban heat island phenomena in Tokyo. In Proceedings of the International Symposium on Sustainable Urban Environment 2007, 22-26. Tokyo: TMU.

松本 淳・山本奈美 2007. 世界における最近の降水現象の特徴. 天気 54: 612-616 .

松本 淳 2007. 世界の気象災害. 漆原和子・藤塚吉浩・松山 洋・大西宏治編著. 世界の地域問題. ナカニシヤ出版 10-11.

高橋日出男 2007. モンスーンからインドを調べる. 矢ヶ崎典隆・椿 真智子編著. 世界の国々を調べる. 古今書院 58-63 .

Nakano, T. 2008. Meteorological observations at Tokyo Metropolitan University since 2001. Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University 43: 131-136.

Zaiki M., Jones P.D. and Tsukahara T. 2008. The nineteenth century 1841-1883 temperature records in Beijing, China. Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University 43, 69-76.

Morishima, W. and Akasaka, I. 2008. Dependence of rice production on the interannual variation of rainfall in the Philippines. Geographical Reports of Tokyo Metropolitan University 43: 107-114.

Akasaka I., Morishima W., and Mikami T. 2007. Seasonal march of rainfall and its interannual variation in the Philippines. Extended Proceedings of IGU commission on climatology session Brisbane 2006 (CD-ROM).

編著書（単著・共著・編集など、分担執筆は含まない）

上野和彦・高橋日出男編著 2007. 日本の諸地域を調べる. 古今書院 150p .

高橋日出男・小泉武栄編著 2008. 自然地理学概論. 朝倉書店 170p .

報告書

松本 淳 2008. 東京大学 文部科学省研究開発局 地球観測システム構築推進プラン「東南アジアにおける降雨観測システムの構築」平成 19 年度研究成果報告書 112p.

高橋日出男・鈴木博人 2008. 雨量計の観測値の空間代表性と降雨の集中度に関する研究. 平成 19 年度首都大学東京・東日本旅客鉄道株式会社 JR 東日本研究開発センターテクニカルセンター共同研究報告書 50p .

中野智子 2007. 二酸化炭素・水蒸気フラックス観測. 平成 16～18 年度科学研究費補助金(基盤研究(B)) 研究成果報告書「干ばつに対するモンゴル草原生態系の自己修復機能の実験的解明」(課題番号 16405002, 研究代表者 篠田雅人), 42-48.

財城真寿美・小口 高・香川雄一・高橋昭子・小池司朗・山内昌和 2007. 日本における居住地・非居住地の分布と標高・傾斜との関係. 平成 16～18 年度科学研究費補助金(基盤研

究 (B)) 研究成果報告書「GIS を活用した居住と自然環境の相互関係の解析」(課題番号 16300294, 研究代表者 小口 高), 7-19.

財城真寿美・小口 高・小池司朗・山内昌和・江崎雄治 2007. 人口の増減と標高・傾斜との関係にみられる時系列変化—1920-2000 年の市区町村別データを用いて—. 平成 16~18 年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書「GIS を活用した居住と自然環境の相互関係の解析」(課題番号 16300294, 研究代表者 小口 高), 21-24.

財城真寿美・小口 高・林 舟・ヘレン=ジャービー・コリン=ニール 2007. 英国ハンバー流域における河川水質値の頻度分布と空間分布の解析. 平成 16~18 年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書「GIS を活用した居住と自然環境の相互関係の解析」(課題番号 16300294, 研究代表者 小口 高), 161-168.

香川雄一・小口 高・財城真寿美・小池司朗・山内昌和・江崎雄治 2007. 東京大都市圏と京阪神大都市圏における駅の乗降者数の分布に関する分析. 平成 16~18 年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書「GIS を活用した居住と自然環境の相互関係の解析」(課題番号 16300294, 研究代表者 小口 高), 121-138.

その他の報文(技術レポート、商業誌、解説・雑録など)

松本 淳 2007. 2005 年春季大会シンポジウム「地球環境の進化と気候変動」(地球環境問題委員会共催)の報告. 天気, 54, 407-408.

丸山茂徳・江口孝雄・笠原順三・下司信夫・松本 淳・松山 洋・山川修治 2007. はじめに: 特集号「水: 地球中心核から大気まで」. 地学雑誌, 116, 1-6.

財城真寿美 2007. 国際科学会議 (International Council for Science: ICSU) 設立 75 周年記念国際会議への派遣報告. 学術の動向 9 月号, 65-68.

講演・学会発表

村田文絵・寺尾 徹・林 泰一・浅田晴久・松本 淳 2007. チェラプンジにおける降水過程に関する研究(第3報). 日本気象学会 2007 年度春季大会講演予稿集, p.196, 5 月, 東京.

森 修一・濱田純一・櫻井南海子・筆保弘徳・佐々木太一・伍 培明・一柳錦平・川島正行・藤吉康志・橋口浩之・Fadli Syamsudin・Emrizal・松本 淳・山中大学 2007. インドネシアスマトラ島における HARIMAU2006 集中観測結果(概要). 日本気象学会 2007 年度春季大会講演予稿集, p.223, 5 月, 東京.

濱田純一・森 修一・伍 培明・櫻井南海子・筆保弘徳・佐々木太一・松本 淳・山中大学・Emrizal・Fadli Syamsudin 2007. HARIMAU2006 集中観測によるスマトラ島沿岸域の対流活動に関する研究. 日本気象学会 2007 年度春季大会講演予稿集, p.353, 5 月, 東京.

横井 覚・松本 淳 2007. 北東アジアモンスーン発達期に発生するコールサージの研究.

- 日本気象学会 2007 年度春季大会講演予稿集, p.354, 5 月, 東京.
- 筆保弘徳・一柳錦平・櫻井南海子・森 修一・濱田純一・佐々木太一・伍 培明・山中大学・松本 淳・Emrizal・Fadli Syamsudin 2007. HARIMAU2006 期間中に観測された降水システムと降水同位体の関係. 日本気象学会 2007 年度春季大会講演予稿集, 223, 5 月, 東京..
- 遠藤伸彦・Ohnmar Htway・井上知栄・松本 淳・Tun Lwin 2007. 東南アジアにおける降水特性の長期変化. 日本気象学会 2007 年度春季大会講演予稿集, p356, 5 月, 東京.
- 松本 淳・里村雄彦・樋口篤志・鼎信次郎・横井 覚 2007. MAHASRI (モンスーンアジア水文気候研究計画). 日本地球惑星科学連合 2007 年大会予稿集 F208-001 (CD-ROM), 5 月, 千葉.
- 横井 覚・松本 淳 2007. 北東アジアモンスーン発達期のコールドサージと中部ベトナムにおける豪雨. 日本地球惑星科学連合 2007 年大会予稿集 F208-005 (CD-ROM), 5 月, 千葉.
- Matsumoto, J., Satomura, T., Wu, P.-M., Mori, S., Hamada, J., Sakurai, N., Yamanaka, M.D., Higuchi, A., Kanae, S., Yokoi, S. and Oki, T. 2007. MAHASRI. International Symposium on Global Change, Asian Monsoon and Extreme weather and Climate, p.24, June, Taipei, Taiwan.
- Matsumoto, J., Satomura, T., Wu,P.-M., Mori, S., Hamada, J., Sakurai, N., Yamanaka, M.D., Higuchi, A., Kanae, S., Yokoi, S. and Oki, T. 2007. MAHASRI and AMY'08. The 21st Pacific Science Congress, p.197, June, Okinawa, Japan.
- Endo,N., Ohnmar Htway, Inoue, T., Matsumoto,J. and Tun Lwin 2007. Interannual Variations in Precipitation Characteristics in Southeast Asia. The 21st Pacific Science Congress, P.194, June, Okinawa, Japan.
- 松本 淳 2007 . モンスーンアジア水文気候研究計画 (MAHASRI)と東南アジア諸国における関連共同研究の諸問題, 平成 19 年度・海外学術調査総括班フォーラム, 6 月, 東京.
- Yokoi, S., Satomura, T. and Matsumoto, J. 2007: Regionality in characteristics of intraseasonal variations over the Indochina Peninsula. The 27th General Assembly International Union of Geodesy and Geophysics, Perugia, July, Perugia, Italy.
- Satomura, T., Matsumoto, J., Mori, S., Wu, P., Hamada, J., Sakurai, N., Yamanaka, M. D., Higuchi, A., Kanae, S., Yokoi, S. and Oki, T. 2007: MAHASRI the new international Asian monsoon research project. The 27th General Assembly International Union of Geodesy and Geophysics, Perugia, July, Perugia, Italy.
- Terao, T. and Matsumoto, J. 2007: MAHASRI & AMY08 Programmes. Celebrating the Monsoon –An International Monsoon Conference, July, Bangalore, India.
- Matsumoto, J. 2007. MAHASRI and AMY'08. The 4th Asian Oceania Geosciences Society Annual Meeting, AS07-HS20-A0034 (CD - ROM), August, Bangkok, Thailand.
- Yokoi, S. and Matsumoto, J. 2007: Cold surge in developing phase of northeasterly Asian monsoon

- and their relationship with heavy rainfall in central Vietnam. The 4th Asian Oceania Geosciences Society Annual Meeting, AS07-HS20-A0032 (CD-ROM), August, Bangkok, Thailand.
- Oki, T., Komori, D., Kanae, S., Satomura, T. and Matsumoto, J. 2007: New challenges in the hydro-meteorological studies in the Indochina Peninsula. The 4th Asian Oceania Geosciences Society Annual Meeting, AS07-HS20-A0029 (CD-ROM), August, Bangkok, Thailand.
- Matsumoto, J. 2007: MAHASRI and AMY'08. International Workshop on Semi-arid Land Surface-Atmosphere Interaction, August, Lanzhou, China.
- Matsumoto, J., Endo, N., Ailikun, B., Yasunari, T., Ohnmar Htway, Inoue, T., Tun Lwin and Kadota, T. 2007: Changes of precipitation characteristics in East and Southeast Asia from 1961 to 2000. International Workshop on Semi-arid Land Surface-Atmosphere Interaction, August, Lanzhou, China.
- Matsumoto, J. and Wang, B. 2007. AMY08 Science and Implementation plan. The Second AMY08 Workshop, September, Bali, Indonesia.
- Matsumoto, J. 2007. GEWEX/MAHASRI. The Second AMY08 Workshop, Bali, Indonesia.
- Ohnmar Htway, Matsumoto, J. and Takahashi M. 2007. Interannual variations of summer monsoon onset over Myanmar. 日本気象学会 2007 年度秋季大会講演予稿集, p.48, 10 月, 札幌.
- Matsumoto, J. 2007: MAHASRI/AMY. International Implementation Workshop of the East Asian Monsoon Field Experiment, Chung-Li, Taiwan.
- 横井 覚・松本 淳 2007 . インドシナ半島東岸での豪雨時における総観規模的特徴 . 日本気象学会 2007 年度秋季大会講演予稿集秋季大会, p.50, 10 月, 札幌.
- 伍 培明・原 政之・筆保弘徳・山中大学・松本 淳・Fadli Syamsudin・Reni Sulistyowate・Yusuf S.・Djajadihardja 2007 . 赤道越え冬季アジアモンスーンによるジャカルタ豪雨 . 日本気象学会 2007 年度秋季大会講演予稿集, p.51, 10 月, 札幌.
- 森 修一・濱田純一・櫻井南海子・筆保弘徳・伍 培明・一柳錦平・川島正行・藤吉康志・橋口浩之・Fadli Syamsudin・Emrizal・松本 淳・山中大学 2007 . スマトラ島における対流系の日周期移動および海上における再発達について-HARIMAU2006 観測結果 - . 日本気象学会 2007 年度秋季大会講演予稿集, p.122, 10 月, 札幌.
- 櫻井南海子・森 修一・川島正行・藤吉康志・大井正行・橋口浩之・Fadli Syamsudin・Emrizal・山中大学・松本 淳 2007. インドネシア・スマトラ島における HARIMAU2007 集中観測結果 . 日本気象学会 2007 年度秋季大会講演予稿集. p.123, 10 月, 札幌 .
- 藤部文昭・松本 淳・小林健二 2007. 区内観測による日降水量データのデジタル化と降水長期変動解析への利用 . 日本気象学会 2007 年度秋季大会講演予稿集 ,p.344, 10 月, 札幌.
- 浜田純一・森 修一・櫻井南海子・山中 大学・松本 淳・Fadli Syamsudin 2007. スマトラ島及び周辺域における降水量観測に基づく降水日変化と季節内変動の関連 . 日本気象

- 学会 2007 年度秋季大会講演予稿集, p.487, 10 月, 札幌.
- Yokoi, S. and Matsumoto, J. 2007. A heavy rainfall event in central Vietnam and collaboration effect of a cold surge and tropical intraseasonal variability. The Third China-Korea -Japan Joint Conference on Meteorology, November, Beijing, China.
- Wu, P., Yamanaka, M. D. and Matsumoto, J. 2007. The formation of nocturnal rainfall offshore from convection over western Kalimantan (Borneo) Island. The Third China-Korea-Japan Joint Conference on Meteorology, November, Beijing, China.
- Wu, P., Hara, M., Fudeyasu, H., Yamanaka, M. D. and Matsumoto, J., Fadli Syamsudin, Reni Sulistyowati and Yusuf S. Djajadihardja 2007. The Impact of trans-equatorial Monsoon Flow on the Formation of Repeated Torrential Rains over Java Island. The Third China-Korea -Japan Joint Conference on Meteorology, November, Beijing, China.
- Matsumoto, J. 2007. MAHASRI and AMY. Extended abstracts of the Japan-Taiwan Joint Workshop for the EAMEX and MAHASRI, p.1-2, Hakone, Japan.
- Wu, P., Yamanaka, M. D. and Matsumoto, J. 2007. The formation of nocturnal rainfall offshore from convection over western Kalimantan Island. Extended abstracts of the Japan-Taiwan Joint Workshop for the EAMEX and MAHASRI, p.21-22, December, Hakone, Japan.
- Yokoi, S. and Matsumoto, J. 2007. Large-scale conditions associated with heavy rainfalls in central Vietnam. The International Symposium for the East Asian Monsoon Experiment and MAHASRI, p.37-38, December, Hakone, Japan.
- Ohnmar Htway · Matsumoto, J. and Takahashi M. 2007. The controlling factor of the interannual variations of summer monsoon onset over Myanmar. The 6th International Symposium on Asian Monsoon System (ISAM6), p.35, December, Fukuoka, Japan.
- Yokoi, S. and Matsumoto, J. 2007. Heavy rainfalls in central Vietnam and cold surges from China. The 6th International Symposium on Asian Monsoon System (ISAM6), p.64, December, Fukuoka, Japan.
- Wu, P., Hamada, J.-I., Yamanaka, M. D., Matsumoto, J. and Hara, M. 2007. Why Rainfall Rarely Occurs over Southeast Kalimantan (Borneo) Island in the Late Afternoon and Evening. The 6th International Symposium on Asian Monsoon System (ISAM6), p.70, December. Fukuoka, Japan.
- Ogino, S.-Y., Nodzu, M. I., Ha, H. T., Fujiwara, M., Satomura, T., Matsumoto, J. and Thanh, N., 2007: Temperature inversion layers and related thermal budget over Hanoi, Vietnam. The 6th International Symposium on Asian Monsoon System (ISAM6), p.65, December, Fukuoka, Japan.
- 松本 淳 2007. MAHASRI と AMY. MAHASRI 国内研究集会, 12 月, 強羅 .
- 松本 淳 2008. モンスーンアジア水文気候研究計画とアジアモンスーン観測年. 気象庁第 73 回気候問題懇談会, 3 月, 東京.

- 松本 淳・浅田晴久・林 泰一 2008. バングラデシュにおける洪水とサイクロン災害. 日本地理学会発表要旨集, p.17, 3月, 東京.
- 高橋日出男 2007. 建築物群がつくる地表面の幾何学的形状と都市気候 —都市型豪雨とヒートアイランド現象の発生評価に向けて—. 首都大学東京 研究シーズ発表会 2007 ~ 環境都市“東京”の創造 ~. 2007年10月. 東京.
- 中野智子 2007. モンゴル半乾燥草原における二酸化炭素フラックスとその制御要因. 日本地球惑星科学連合 2007年大会予稿集 J244-P012 (CD-ROM), 5月, 千葉.
- 中野智子・根本 学 2007. 夜間結露フラックス測定手法の比較実験. 農業環境工学関連学会 2007年合同大会講演要旨集 P95 (CD-ROM), 9月, 東京.
- Nakano, T. 2007. Perspective on estimation of net plant production in semi-arid grassland. The Japan-Mongolia Joint Workshop on the Mongolian Grasslands and Mobile Pastoralism, September, Tokyo.
- 中野智子・根本 学・篠田雅人 2007. 半乾燥草原における光合成速度とその制御要因. 日本気象学会 2007年度秋季大会講演予稿集 p.313, 10月, 札幌.
- 中野智子・根本 学・篠田雅人 2008. モンゴル半乾燥草原における土壌水分と生態系呼吸. 2008土壌水分ワークショップ要旨集, p.9.1-9.4, 3月, 東京.
- Grossman, M., Zaiki, M. and Johnson, R. 2007. Annual maximum floods and typhoons in the Kanto, Kyushu, and Hokkaido regions of Japan (1960 - 2002). The Association of American Geographers 2007 Annual Meeting Program p.384, April, San Francisco.
- Tsukahara, T. and Zaiki, M. 2007. Meteorological data by von Siebold and its implications for an analysis of Global Warming. Siebold Collection Conference II July 2007, July, Leiden.
- Grossman, M. and Zaiki, M. 2007. Reconstructing typhoon landfalls in Japan from historical documentary records, 1801-1830. Papers of the Applied Geography Conference no.30 p.334-343, October, Indianapolis.
- Tsukahara, T., Zaiki, M., Nakagami, K. and Osawa, M. 2007. Pompe's works related to science on earth and environment: mineral collection, weather observation, bathing at beach and drinking milk. International Historical Conference: 150th Anniversary of the Beginning of Modern Western-Style Medical Education in Japan, November, Nagasaki.
- Zaiki, M., Tsukahara T., Können, G.P. and Mikami, T. 2007. Reconstruction of the pressure pattern over Japan using two-point pressure/temperature datasets. American Geophysical Union Fall Meeting 2007 PP11A-0213 (CD-ROM), December, San Francisco.
- 財城真寿美・Jarvie, H.P.・林 舟・小口 高・Neal, C. 2007. Statistical and GIS analysis of river water quality data across the Humber catchment, UK. 日本地球惑星科学連合 2007年大会予稿集 Z170-P010 (CD-ROM), 5月, 千葉.
- 小口 高・財城真寿美・畑屋みづ穂・林 舟・Jarvie, H.P. 2007. Comparison of spatial distributions of riverine suspended sediment concentration under high- and low-flow conditions. 日本地球惑

- 星科学連合 2007 年大会予稿集 Z164-P005 (CD-ROM), 5 月, 千葉.
- Grossman, M.・財城真寿美・小口 高 2007. Annual maximum floods and typhoons in the Kanto and Hokkaido regions of Japan in the 20th Century. 日本地理学会発表要旨集 no. 72 p.129, 10 月, 熊本.
- 財城真寿美・Jarvie, H.P.・林 舟・小口 高 2007. 英国ハンバー流域における河川水質値の頻度分布の形状と空間分布の解析.東京大学空間情報科学研究センターシンポジウム - CSIS DAYS 2007 全国共同利用研究発表大会・研究アブストラクト集 p.16, 11 月, 柏.
- 大沢真澄・塚原東吾・財城真寿美 2007. ポンペの地学への関心：日本産鉱物コレクションを中心に. 2007 年度洋学史学会秋季大会. 11 月, 長崎.
- 財城真寿美・Jones P.・塚原東吾・三上岳彦 2008. 19 世紀 (1841-1883 年) の中国・北京における気象観測記録. 日本地理学会発表要旨集 no. 73 p.143, 3 月, 草加.
- 財城真寿美・大羽辰矢・平野淳平・森島 済 2008. 山形県川西町の古日記天候記録を用いた 1830 年～1980 年の気候復元. 日本地理学会発表要旨集 no. 73 p.244, 3 月, 草加.
- 田中博春・瀬戸芳一・三上岳彦・又吉直樹 2007. 汐留地区のビル群が海風の風下地域に及ぼす影響評価(3) □パイロットバルーン・ヘリコプタ・ドップラーライダーによる同期観測の結果から□. 日本気象学会 2007 年度春季大会講演予稿集 p.258, 5 月, 東京.
- 赤坂郁美・森島済・三上岳彦. 2007. フィリピンにおける降水の季節変化異常-1999～2000 年を事例として-. 日本気象学会 2007 年春季大会予稿集 p.279, 5 月, 東京.
- Akasaka, I., Morishima, W., and Mikami, T. 2007. Interannual variation on seasonal march of rainfall in the Philippines. Asia Oceania Geoscience Society-Annual meeting 4th (CD-ROM), July, Bangkok, Thai land.
- 赤坂郁美・森島済・三上岳彦. 2007. フィリピンにおける雨季入りに関連した循環場の特徴とその年々変動. 日本地理学会秋季学術大会要旨集 p. 100, 10 月, 熊本.
- 赤坂郁美・森島済・三上岳彦. 2008. フィリピンにおける夏季雨季入りに関連した循環場及び海面水温分布の特徴. 日本地理学会春季学術大会要旨集 p.125, 3 月, 埼玉.
- 福島あずさ・高橋日出男・松本 淳 2007. ネパールにおけるプレモンスーン季降水量の年々変動と循環場の特徴について. 日本気象学会 2007 年度春季大会講演予稿集, p.197, 5 月, 東京.
- Fukushima, A. and Takahashi, H. 2007. The influence of circulation change from pre-monsoon to monsoon season upon the rainfall phenomena in Nepal. AOGS, Thailand, August, 2007.
- 大久保さゆり・三上岳彦 2007. 関東地方における SPM (浮遊粒子状物質) 濃度およびその空間分布パターンの長期変動. 日本気象学会 2007 年度春季大会講演予稿集 P.251, 5 月, 東京.
- 大久保さゆり・三上岳彦 2007. 関東地方における SPM 空間分布の長期変動. 第 48 回大気環境学会年会講演要旨集 p.319, 9 月, 岡山.
- 高橋一之・三上岳彦 2007. 東京都区部における夏期の気温分布と海陸風の挙動. 日本気象

学会 2007 年度春季大会講演予稿集 p.165, 5 月, 東京.

岡暁子・三上岳彦・泉岳樹・清水昭吾・成田健一 2008. 皇居緑地の冷気流出と周辺市街地への影響評価. 日本地理学会 2008 年春季学術大会都市気候環境研究グループ例会, 3 月, 草加.

3 環境地理学研究室

1) スタッフ

岡 秀一 (おか しゅういち) 准教授 / 理学博士
植生地理学、景観生態学

大山 修一 (おおやま しゅういち) 助教 / 博士(人間・環境学)
地域研究(アフリカ・南米)、環境地理学、生態人類学

2) 研究概要

この研究室では、環境と人類とのダイナミックな関係、そのグローバル性に着目しながら地球環境の自然変動とその人為的な変動の機構を、いろいろな時・空間スケールで捉えて、総合的・学際的アプローチによって解明しようとする研究を展開している。そのため、伝統的な自然地理学の枠のなかにとらわれず、自然・人文にわたる環境諸科学と密接な連携を保ちながら、柔軟かつ幅の広い研究活動を実施している。研究方法としては、フィールド・ワークと現地における観測や計測調査、参与観察を基本としながらも、空中写真や衛星観測データ等の利用・解析を重用している。研究地域は、国内はもとより、広く海外に及んでいる。海外では、アフリカ地域の環境変動と人間対応、南・北アメリカやシベリア地域の植生と気候景観、熱帯海域のサンゴ礁およびヨーロッパも含むカルスト景観、マングローブ植生の解明、さらにアフリカ・ウッドランド帯における焼畑農耕民の文化生態的研究に重点を置いている。最近の主要なテーマには、以下のものがある。

- 1) 高山・亜高山の自然景観とその変動をめぐる地生態学的研究
- 2) 亜熱帯島嶼小笠原における水文気候環境からみた植生景観形成に関する研究
- 3) 植生や土地利用からみた気候景観の研究
- 4) サバンナ化・砂漠化・荒廃景観の形成など、環境劣悪化のプロセス研究
- 5) アフリカのサバンナ地域における環境変動と人間対応に関する研究
- 6) アフリカ・サヘル帯における荒廃地の修復に関する応用生態学的研究
- 7) アフリカ・ウッドランド帯における焼畑農耕社会の形成と農法の展開様式に関する文化地理学的研究
- 8) 南米・アンデスにおけるラクダ科動物とジャガイモのドメスティケーションに関する研究

3) 研究成果(2007年度)

原著論文・展望論文(査読付きの論文)

小橋寿美子・藤井紀行・岡 秀一 2007. プナの地理的変異研究と今後の展望．長野県植物研究会誌 40: 207-213 .

大山修一 2007. ニジェール共和国における都市の生ゴミを利用した砂漠化防止対策と人間の安全保障 - 現地調査にもとづく地域貢献への模索．アフリカ研究 71: 85-99.

報告書

大山修一 2008. ザンビア共和国における土地制度の改正—近代法にもとづく市民社会の形成と焼畑農耕社会の混乱．児玉由佳編『アフリカ農村における住民組織と市民社会』調査研究報告書 128-161. 独立行政法人 日本貿易振興機構 アジア経済研究所.

書評

大山修一 2007. アフリカ可能性を生きる農民 環境-国家-村の比較生態研究(島田周平 著) . 地理学評論 81(3): 128-130.

その他の報文(技術レポート, 商業誌, 解説・雑録など)

岡 秀一 2008. 多摩丘陵の谷戸を巡る小さな旅．地理, 53(4): 86-93 .

Oka, S., Oyama, S., Tsuchiya, T. and Yakabe, Y. 2007. Laboratory of Environmental Geography: Focusing on the multiphasic relation between human and physical environment. *Proceedings of the International Symposium on Sustainable Urban Environment 2007*. Graduate School of Urban Environmental Sciences, Tokyo Metropolitan University. November 9-10, 2007: 112.

大山修一 2007. 生きもの博物誌 ビクーニヤの保護と村おこし ビクーニヤ (南米・アンデス) . 月刊みんぱく 30 (6): 20-21.

土屋俊幸 2008. 流域の環境保全と市民 - 酒匂川を事例とした研究より - . 第 14 回神奈川県市民環境活動報告会 講演要旨集, 第 14 回神奈川県市民環境活動報告会実行委員会, 39-42 .

矢加部友 2007. 小笠原諸島の外来種対策—世界自然遺産登録に向けての試み．日本熱帯生態学会ニューズレター 69 : 1-6 .

講演

岡 秀一 2007. 小笠原諸島 東洋のガラパゴスと言われるが . 平成 19 年度めぐろシティカレッジ講座「世界の島々 海の駅, 島の自然と文化その真実」, 東京, 4 月 .

岡 秀一 2007. 地図から植生景観・気候景観を読み解く . 平成 19 年度めぐろシティカレッジ講座「地図と風景 地図と風景その密なる関係を探る」, 東京, 5 月 .

岡 秀一 2007. いろいろな気候景観を地図と地域に探す (現地実習) . 平成 19 年度めぐろシティカレッジ講座「地図と風景 地図と風景その密なる関係を探る」, 東京, 6 月 .

岡 秀一 2007. 流域景観と里山管理 多摩丘陵における谷戸の事例 . 九州産業大学景観

- セミナー，福岡，6月．
- 岡 秀一 2007. 自然の読み方 環境理解の基礎．首都大学東京オープンユニバーシティ サポートレンジャー養成講座 期，東京，8月．
- 菊地俊夫・岡 秀一・鈴木毅彦 大山修一 2007. 野外実習：山の自然を理解し、考える．首都大学東京オープンユニバーシティ サポートレンジャー養成講座 期，東京，9月．
- Kazmer, M., Sho, K., Oka, S., Sugimoto, O., Asami, R., Yamada, T., and Iryu, Y. 2007. Annual record of environmental history in corals and tree-rings a land-sea correlation at Ogasawara Islands, Japan. The First Asian Dendrochronology Conference and Workshop, Thailand, September.
- 岡 秀一・畠堀操八 2007. 村山古道からみる富士山南面における森林帯の変遷（予報）．第9回富士山セミナー，山梨，12月．
- 岡 秀一・川平夏也 2008. 日の出地域における森林利用の変遷．フォーラム多摩、里山の自然から学ぶ（首都大学東京 多摩・里山調査研究グループ），東京，3月．
- 岡 秀一・白川亜沙子・菅野洋光 2008. 富士山北西斜面御庭のカラマツ低木林はなぜ維持されるのか？ 樹高と樹齢の関係から．日本地理学会 2008年春季学術大会，埼玉，3月．
- Oka, S., Oyama, S., Tsuchiya, T. and Yakabe, Y. 2007. Laboratory of Environmental Geography: Focusing on the multiphasic relation between human and physical environment. International Symposium on Sustainable Urban Environment. Graduate School of Urban Environmental Sciences, Tokyo Metropolitan University. November.
- 大山修一 2007．ラクダ科野生動物ビクーニャの生態．民族自然誌研究会 第47回例会『狩猟・牧畜論再考 - アンデスから見る』，京都，4月．
- 大山修一 2007．ニジェールにおける農村の世帯間格差と牧畜民との野営契約．第44回日本アフリカ学会学術大会，長崎，5月．
- 大山修一 2007．地図からみるアフリカの自然と土地、歴史、民族文化．めぐろシティカレッジ『地図と風景—地図と風景その密なる関係を探る』，東京，6月．
- 大山修一 2007．西アフリカ・サヘルにおける農耕民ハウサの砂漠化に対する環境認識と対処技術．日本地理学会 2007年秋季学術大会，熊本，10月．
- 大山修一 2007．南米・アンデス山脈におけるラクダ科動物とジャガイモの共進化．日本地理学会 2007年秋季学術大会 ネーチャーアンドソサエティー研究会，熊本，10月．
- 大山修一 2007．ザンビアの焼畑—ベンバのチテメネ農法 写真7点．宮崎県椎葉民俗芸能博物館開館10周年記念事業 特別展『先史時代農耕と九州山地の焼畑』，椎葉，9月～10月．
- 大山修一 2007．西アフリカ・ニジェールにおける砂漠化問題と農耕民ハウサの土壌改善に関する在来技術．第727回首都大学東京 社会人類学研究会，八王子，11月．
- 大山修一 2007．ザンビア北部における土地の囲い込みと焼畑農耕社会の変容．アジア経済

- 研究所 共同研究会『アフリカ農村における住民組織と市民社会』, 東京, 11月.
- 大山修一 2008. ドメスティケーションの視点からみた野生動物ビクーニャの生態. 中部人類学談話会第186回例会 ミニ・シンポジウム『アンデスのラクダ科動物とその利用に関する学際的研究』, 名古屋, 3月.
- 川平夏也 2008. 天竜川中流河谷における土地利用からみた地域変容. 日本地理学会 2008年春季学術大会, 埼玉, 3月.
- 土屋俊幸 2008. 流域の環境保全と市民 - 酒匂川を事例とした研究より -. 第14回神奈川県市民環境活動報告会, 横浜, 2月.
- 土屋俊幸 2008. 流域における水環境・住民意識・保全活動の連環 - 酒匂川を事例に -. 相模原市立博物館研究発表会, 相模原, 3月.
- 土屋俊幸 2008. 神奈川県西部・酒匂川流域における水環境と住民意識, 保全活動の連環. 日本地理学会 2008年春季学術大会, 埼玉, 3月.
- 矢加部友・岡 秀一 2008. 小笠原諸島の乾性低木林に展開するリュウキュウマツ個体群の動態. 日本地理学会 2008年春季学術大会, 埼玉, 3月.
- 矢加部友 2008. 小笠原諸島の乾性低木林に展開するリュウキュウマツ個体群の動態. 相模原市立博物館研究発表会, 相模原, 3月.
- 滝島啓介 2007. 富士山北西斜面の樹木限界付近におけるパッチ状群落の高度変化. 第9回富士山セミナー, 山梨, 12月.
- 吉田佳弘 2008. 多摩川水系秋川における 2007年台風9号による中洲の変化と草本植生群落の破壊. 第56回 全国地理学専攻学生卒業論文発表大会, 小金井, 3月.

4 地理情報学研究室

1) スタッフ

松山 洋 (まつやま ひろし) 准教授 / 博士 (理学)
水文気象学, 地理情報学

泉 岳樹 (いずみ たけき) 助教 / 博士 (工学)
都市気候学, 地理情報科学, 数値気象モデル

中山 大地 (なかやま だいち) 助教 / 博士 (理学)
地理情報科学, リモートセンシング, 数値地形学

2) 研究概要

本研究室では、地形・気候・水文・植生などから構成される自然環境についての総合的理解を目指している。具体的には、質量保存・エネルギー保存・運動方程式などの物理法則に基づいて、原因から結果を説明しようとするアプローチと、フィールドでの調査・観測に基づいて事実を実証的に示そうとするアプローチを組み合わせる研究を進めている。このため、定量的データの収集・マッピング・統計解析・数値モデルなどを主要な方法論としている。

教員の研究と大学院生・卒研生の指導、および地理環境科学調査法(V)を通じて取り組んでいきたいテーマには次のようなものがある。

- ・ 大気圏・水圏のエネルギーと水の循環に関する研究
- ・ 積雪分布および積雪水資源量の把握と融雪-流出に関する研究
- ・ 針葉樹の分光反射特性と葉面積指数の定量的評価に関する研究
- ・ 阿蘇山および東京周辺の水循環に関する研究
- ・ 都市ヒートアイランド現象の数値シミュレーションに関する研究
- ・ 都市における地表面状態(アルベド、粗度、蒸発効率)の把握に関する研究
- ・ デジタル標高データ・リモートセンシング・データマイニングを用いた地すべり地推定に関する研究
- ・ リモートセンシングおよび GIS を用いたバングラデシュの洪水モニタリングに関する研究
- ・ 合成開口レーダーを用いた都市および自然環境のモニタリングに関する研究
- ・ 衛星画像の精密幾何補正に関する研究

3) 研究成果 (2007 年度)

原著論文・展望論文 (査読付きの論文)

島村雄一・泉 岳樹・松山 洋 2007. タブレット PC を用いた高速マッピングシステムの構築とこれを用いたグランドトゥルースの取得 - 新潟県中越地方の積雪調査の例 . 地学雑誌 116: 749-758.

齋藤 仁・中山大地・松山 洋 2007. Decision tree による地すべり発生流域の推定とその検証 - ASTER データを用いて - . 日本地すべり学会誌 44: 1-14.

Zhang, H., Sato, N., Izumi, T., Hanaki, K. and Aramaki, T. 2008. Modified RAMS-Urban canopy model for heat island simulation in Chongqing, China. Journal of Applied Meteorology and Climatology 47: 509-524.

その他の論文 (査読なしの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む)

松山 洋 2007. ブラジルにもある亜熱帯収束帯 - 背中合わせの異常乾燥と豪雨 - . 漆原和子・藤塚吉浩・松山 洋・大西宏治編 『図説・世界の地域問題』 56-57. ナカニシヤ出版.

松山 洋 2007. 中央アジアのバルハシ湖流域における水資源問題. 漆原和子・藤塚吉浩・松山 洋・大西宏治編 『図説・世界の地域問題』 104-105. ナカニシヤ出版.

松山 洋 2008. 山地流域の積雪水資源量の把握: 新潟県巻機山周辺を事例に. 電力土木 No. 333: 6-11.

成宮博之・中山大地・松山 洋 2007. 数理統計学的手法に基づく東京都の湧水の分類. 水利科学 No. 295: 43-56.

漆原和子・藤塚吉浩・松山 洋・大西宏治 2007. 世界の地域問題. 漆原和子・藤塚吉浩・松山 洋・大西宏治編 『図説・世界の地域問題』 2-3. ナカニシヤ出版.

編著書 (単著・共著・編集など、分担執筆は含まない)

漆原和子・藤塚吉浩・松山 洋・大西宏治編 2007. 『図説・世界の地域問題』 ナカニシヤ出版.

報告書

松山 洋 2007. GIS Day in 東京 2006 (GIS の講演会および講習会): GIS で考える地域の安全. 『歴史学・地理学助成報告書 平成 18 年度』 168-169. 財団法人 福武学術文化振興財団.

書評

松山 洋 2007. 書架 (仁科淳司: やさしい気候学 増補版). 地理 52(5): 121.

松山 洋 2007. 書架 (田所清克: ブラジル北東部の風土と文学). 地理 52(6): 120.

松山 洋 2007. 書架 (平凡社編: ジュニア世界の国旗図鑑 新訂第 3 版). 地理 52(7): 120.

松山 洋 2007. 書架 (日高敏隆・秋道智彌編: 森はだれのものか? アジアの森と人の未来).

地理 52(8): 120.

松山 洋 2007. 書架 (西川大二郎: ある日本人農業移民の日記が語る - ブラジルにおける日本農業移民像 -). 地理 52(9): 115.

松山 洋 2007. 書架 (ホフマン - ウェレンホフ, B.・リヒテネガー, H.・コリンズ, J. 著, 西修二郎訳: GPS - 理論と応用 -). 地理 52(10): 107.

松山 洋 2007. 書架 (吉野正敏: 気候学の歴史 - 古代から現代まで -). 地理 52(11): 114.

松山 洋 2007. 書架 (平川敬介: 600 字で書く文章表現法). 地理 52(12): 111.

その他の報文 (技術レポート、商業誌、解説・雑録など)

松山 洋 (代理発表 長谷川宏一) 2007. ハヶ岳森林観測タワーを用いた多方向反射観測システムの構築. 第 9 回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウム資料集: 40-43.

松山 洋 2007. 17 年ぶりの志賀高原. TWV OB 会通信/名簿 2008 年: 97-99.

松山 洋 2008. 湧水温、湧出量とシリカ濃度に基づく涵養・湧出機構の推定 東京都日野市の例 -. 多摩川 No. 117: 9.

丸山茂徳・江口孝雄・笠原順三・下司信夫・松本 淳・松山 洋・山川修治 2007. はじめに: 特集『水; 地球中心核から大気まで』. 地学雑誌 116: 1-6.

泉 岳樹 2007. 皇居吹上御苑での気象観測はいかに実現したか - 懐の深い TWV ネットワーク -. TWV OB 会通信/名簿 2008 年: 100-101.

成宮博之 2007. 気泡の湧き出す泉 - 東京都町田市芹ヶ谷公園 -. 地理 52(6): 81-83.

岩崎一晴 2007. メソスケール気象モデルを用いた羅臼だしの風況予測. 2006 年度第 55 回全国地理学専攻学生卒業論文発表大会記録, 新地理 55(1): 62.

講演・学会発表

松山 洋 2007. 地図から水循環の風景を読み解く. 平成 19 年度めぐろシティカレッジ「地図と風景 - その密なる関係を探る - 」, 5 月, 東京.

泉 岳樹 2007. 地区計画とまちづくり条例 ~ 阿佐ヶ谷住宅再開発の現場から ~. 第 5 回 わがまちフォーラム, 8 月, 東京.

泉 岳樹 2007. 地区計画制度の概要. 第 6 回 成田地域まちづくりセミナー & 懇談会, 8 月, 東京.

泉 岳樹・長谷川宏一・松山 洋・梶原康司・本多嘉明 2007. カラマツ林における方向別反射特性の季節変化 ~ 日向葉・日陰葉の反射率の差に注目して ~. 日本気象学会 2007 年度秋季大会講演予稿集 p. 418, 10 月, 札幌.

泉 岳樹・三上岳彦・清水昭吾・岡 暁子 2008. 都市内緑地のクールアイランド効果について - 皇居と周辺域での観測結果報告 - 2) 2006/2007 年夏季の皇居クールアイランド観測結果. 日本地理学会都市気候環境研究グループ, 3 月, 草加.

中山大地・坂本健二・松山 洋 2008. 太陽高度の低い時期における衛星画像の新しい地形効

- 果補正法の提案. 日本地理学会 2008 年度春季学術大会発表要旨集 p. 260, 3 月, 草加.
- 長谷川宏一・松山 洋・都築勇人・末田達彦 2007. 多方向放射観測データを用いた葉面積指数推定手法の提案. 第 118 回日本森林学会大会学術講演集 A02 (CD-ROM), 4 月, 福岡.
- 長谷川宏一 2008. カラマツ林における方向別反射特性の季節変化と日変化～光合成モデルに必要な樹冠構造パラメータ推定にむけて～. 第 10 回 CEReS 環境リモートセンシングシンポジウム, 2 月, 千葉.
- 齋藤 仁・中山大地・松山 洋 2007. データマイニングによる広域を対象とした斜面崩壊発生流域の推定 - 時系列解析を用いて -. 2007 年度東京大学空間情報科学研究センター 第 10 回年次シンポジウム (CSIS DAYS 2007)「全国共同利用研究発表大会」研究アブストラクト集 p. 8, 11 月, 柏.
- 齋藤 仁・中山大地・松山 洋 2007. データマイニングによる広域の斜面崩壊発生流域の推定 - 時系列分析を用いて -. 日本地形学連合 2007 年秋季大会講演要旨(地形 29, p.76), 11 月, つくば.
- 齋藤 仁・中山大地・松山 洋 2007. データマイニングによる広域の斜面崩壊発生流域の推定と斜面崩壊の発生に関する定量的検討. 寒冷地形談話会 2007 年 12 月例会, 12 月, 東京.
- 齋藤 仁 2008. GIS とリモートセンシングを用いた斜面崩壊の発生に関する定量的検討 - 赤石山脈を対象として -. 日本地すべり学会若手ワークショップ「研究集会 地形・地質学的な手法を用いた斜面変動の発生予測」, 3 月, 松本.
- Saito, H., Nakayama, D., and Matsuyama, H. 2008. Quantitative analysis of landslide susceptibility and occurrence of landslides at catchment scale using data mining technique. Abstract Volume of the Taiwan and Japan Joint Symposium on Geomorphological Hazards and Management, p. 46, March, Taipei, Taiwan.
- 齋藤 仁・中山大地・松山 洋 2008. Decision tree を用いた斜面崩壊発生流域の推定と斜面崩壊の発生に関する定量的検討. 日本地理学会 2008 年度春季学術大会発表要旨集 p. 178, 3 月, 草加.
- 成宮博之・中山大地・松山 洋 2008. 水文化的手法を用いた湧水の涵養域の推定と環境の変遷による湧水の変化について - 東京都日野市を事例として -. 日本地理学会 2008 年度春季学術大会発表要旨集 p. 204, 3 月, 草加.
- Hoque, R., Nakayama, D., and Matsuyama, H. 2008. Monitoring the 2004 flood in the Meghna river basin in Bangladesh using ground data, RADARSAT imagery and GIS. 日本地理学会 2008 年度春季学術大会発表要旨集 p. 259, 3 月, 草加.
- 渡邊 高・中山大地・松山 洋 2007. 台風経路の違いと山梨県内の雨量分布特性との関係について.
- 日本気象学会 2007 年度春季大会講演予稿集 p. 409, 5 月, 東京.
- 稲村友彦・坂本健二・岩崎一晴・渡邊 高・齋藤 仁・泉 岳樹・中山大地・松山 洋 2007. まつばり風の数値シミュレーション～現実の地形と仮想的な地形を用いて～. 日本気象学

- 会 2007 年度春季大会講演予稿集 p. 377, 5 月, 東京.
- 稲村友彦・坂本健二・岩崎一晴・渡邊 嵩・齋藤 仁・泉 岳樹・中山大地・松山 洋 2007. 阿蘇山の中央火口丘と立野火口瀬がまつぼり風発生に与える影響. 日本地理学会 2007 年度秋季学術大会発表要旨集 p. 94, 10 月, 熊本.
- 稲村友彦 2008. メソ数値気象モデルを用いた関東地方の風系に与える都市の影響に関する研究 - 東京における強雨日を対象にして -. 平成 19 年度全国地理学専攻学生卒業論文発表大会, 3 月, 東京.
- Inamura, T., Sakamoto, K., Iwasaki, K., Watanabe, T., Saito, H., Nakayama, D., Izumi, T., and Matsuyama, H. 2008. Effects of central cone of Mt. Aso and a gorge at the west rim of the caldera on Matsubori wind. International Symposium on Agricultural Meteorology (ISAM2008), March, Shimonoseki.
- 岩崎一晴・泉 岳樹・松山 洋 2007. メソスケール気象モデルを用いた羅臼だしの風況予測. 日本気象学会 2007 年度春季大会講演予稿集 p. 376, 5 月, 東京.
- 三上岳彦・泉 岳樹・清水昭吾・岡 暁子 2008. 都市内緑地のクールアイランド効果について - 皇居と周辺域での観測結果報告 - 1) 皇居のクールアイランド観測の意義と概要報告. 日本地理学会都市気候環境研究グループ, 3 月, 草加.
- 成田健一・三上岳彦・泉 岳樹・清水昭吾・岡 暁子. 2008. 都市内緑地のクールアイランド効果について - 皇居と周辺域での観測結果報告 - 3) 皇居緑地の冷気にじみ出し現象の実態と若干の考察. 日本地理学会都市気候環境研究グループ, 3 月, 草加.
- 岡 暁子・三上岳彦・泉 岳樹・清水昭吾 2008. 都市内緑地のクールアイランド効果について - 皇居と周辺域での観測結果報告 - 4) 皇居緑地の冷気流出と周辺市街への影響評価. 日本地理学会都市気候環境研究グループ, 3 月, 草加.
- 手代木功基・黒田真二郎・Kezer, K.・小山拓志・岩田修二 2008. 中国天山山脈, ウルムチ河源頭 1 号氷河の前面域における植生分布を規定する要因. 日本地理学会 2008 年度春季学術大会発表要旨集 p. 226, 3 月, 草加 .

5 都市・人文地理学研究室

1) スタッフ

杉浦 芳夫 (すぎうら よしお) 教授 / 博士(理学)
人文地理学

若林 芳樹 (わかばやし よしき) 教授 / 博士(理学)
都市地理学, 行動地理学, 地理情報科学

武田 祐子 (たけだ ゆうこ) 助教 / 博士(文学)
地理情報システム, 都市地理学

坪本 裕之 (つぼもと ひろゆき) 助教
都市地理学, オフィス研究

S

原山 道子 (はらやま みちこ) 助教
計量書誌学

2) 研究概要

この研究室は、人文地理学の分野を研究するグループである。人間との関係における地域ないし空間の問題を、人文・社会科学的側面からアプローチし、多様な人文現象の構造的な説明・解釈を目的としている。現在行なわれている研究は、様々なレベルに分類できる。対象地域としては、都市とその周辺地域を中心とし、事象としては産業活動、人間行動や意識、その他の種々の人文・社会現象、方法論としては計量的方法、統計的実証的手法、および文献検証的手法が使われ、対象時期は歴史時代より現代までおよぶ。「専門は深く」、「関心は広く」を標語にして、次のような研究が行われている。

1. 数理モデルによる人文地理的現象の解析:

- 1) 経済活動の立地、
- 2) 人・物の移動と情報の伝播、
- 3) 頭の中にイメージする地図と空間的行動、
- 4) 時間地理学的研究

2. 地域研究による人文地理的現象の解析:

- 1) 人間や経済活動や文化活動と環境との関わり合いに関する研究、
- 2) 都市近郊における土地利用変化と諸事象の地域形成に関する研究、

- 3)人間がつくる地域組織や社会組織に関する研究、
- 4)環境変化にともなう人間活動の変容に関する研究
- 3. 都市システムの解析:
 - 1)都市内部の空間構造の研究、
 - 2)都市群のシステム論的研究
- 4. 地理思想の研究:
 - 1)現代地理学の研究史、
 - 2)地理学研究分野の計量書誌学的研究

3) 研究成果 (2007 年度)

原著論文・展望論文(査読付きの論文)

- 若林芳樹 2008. 地理空間の認知における地図の役割. 認知科学 15(1): 38-50.
- 由井義通・若林芳樹・中澤高志・神谷浩夫 2007. 働く女性の居住地選択と都市空間. E-journal GEO 2(3): 139-152.
- 中澤高志・由井義通・神谷浩夫・木下礼子・武田祐子 2008. 海外就職の経験と日本人としてのアイデンティティ - シンガポールで働く現地採用日本人女性を対象に -. 地理学評論 81 : 95 - 120.
- TSUBOMOTO, H. 2007. Restructuring Business Spaces in Tokyo after the 1990s. Annals of the Japan Association of Economic Geographers 54: 461-477.
- 坪本裕之 2008 . 東京都心における外資系経営コンサルティング会社の新たなオフィス形態の構築—1990 年代以降の A 社を事例として—. 都市地理学 3 : 18-33.
- 矢部直人 2007 . 東京大都市圏におけるニート存在要因の地域的変動 移動窓パス解析による分析 . 人文地理 59(4) : 348-362 .

その他の論文(査読なしの論文、紀要・単行本の分担執筆を含む)

- 杉浦芳夫 2007 . 『南ドイツの中心地』の書評をめぐって . 理論地理学ノート 16(印刷中).
- 金原慎一郎・杉浦芳夫・原山道子 2007 . 都電をシンボルとした「ジョイフル三ノ輪」商店街の現状と課題 . 理論地理学ノート 16 (印刷中)
- 若林芳樹 2007. 都市とその機能 . 藤田佳久, 田林 明編『日本の地誌 7 中部圏』473-482 , 朝倉書店 .
- 若林芳樹 2007. 知覚の地理 . 上野和彦・椿 真智子・中村康子編『地理学基礎シリーズ 1 地理学概論』89-94 , 朝倉書店 .
- 若林芳樹 2007. 地図を通して見た世界 . 小林浩二編著『実践 地理教育の課題』178-194 , ナカニシヤ出版 .
- 有馬貴之 2008 . 東京のアーバンツーリズム . 菊地俊夫編『観光を学ぶ 楽しむことからはじまる観光学 』二宮書店 , 133-143 .

有馬貴之 2008 .【コーヒーブレイク】東京の新しいアーバンツーリズム お台場を歩く .
菊地俊夫編 『観光を学ぶ 楽しむことからはじまる観光学 』二宮書店 , 144-151 .

編著書(単著・共著・編集など、分担執筆は含まない)

小林 茂・杉浦芳夫編著 2008 .『改訂版 人文地理学』放送大学教育振興会 .
OECD 編著 ,神谷浩夫監訳 ,由井義通・久木元美琴・武田祐子・若林芳樹・中澤高志訳 2008 .
『地図でみる世界の地域格差』明石書店 .

報告書

坪本裕之 2007 .『相模原市における樹林地の分布変遷と保全の意義に関する研究』 .さがみ
はら都市みらい研究所研究報告書 . 16p .

講演・学会発表

Wakabayashi, Y. 2007. Gender-related differences in the map use of in-vehicle navigation systems. 2007 年 8 月 4 日~10 日 , 23rd International Cartographic Conference, モスクワ .

若林芳樹 2007. 地理学における犯罪研究と犯罪マップの意義 . 2007 年 9 月 2 日 , 日本犯罪心理学会第 45 回大会 , ビッグパレットふくしま (郡山市)

若林芳樹 2007. 空間認知の視点からみた学生の世界地理認識に関する一考察 . 2007 年 10 月 7 日 , 日本地理学会秋季学術大会 , 熊本大学 .

若林芳樹 2007. 地図のリテラシーと主題図の読図 - 日本の女性地図帳の読み方 - . 2007 年 10 月 20 日 , 日本国際地図学会第 41 回地方大会 , 富山大学 .

若林芳樹 2008. GIS と空間認知 : 進化する地図と地理情報の科学 . 2008 年 3 月 10 日 , GIS セミナー・中国 , ウエストプラザ (広島市) .

坪本裕之 2007 .ワーク・ライフバランスをベースとした日本の活性化と進むべき道 . 2007 年 11 月 8 日 , ビジネスプロセス革新協議会講演会 . 東京 .

梁 海山 2008 . 中国内モンゴルにおける環境変化と都市化の進展 . 2008 年日本地理学会春季学術大会 , 草加 , 2008 年 3 月 29 日 .

栃木彩子 2008 .大都市縁辺における離島農村の存在形態とその持続性 伊豆大島の北の山地区と差木地地区の場合 . 2008 年日本地理学会春季学術大会 , 草加 , 2008 年 3 月 30 日 .

有馬貴之 2007 . 上野動物園における来園者の空間利用と園内経験 . 2007 年度日本地理学会秋季学術大会 , 熊本 , 2007 年 10 月 6 日 .

有馬貴之 2008 . 上野動物園における来園者の移動パターンとその地理的性格 . 2008 年日本地理学会春季学術大会 , 草加 , 2008 年 3 月 29 日 .

6 特定学術研究

教育奨励寄付金による研究 2件

鈴木毅彦：特定研究寄附金「古環境復元に関わる火山灰の記載学的研究」

泉 岳樹：教育研究奨励寄付金（アジア航測株式会社）「気候システム及び地理情報化に関する研究」

受託研究費による研究 1件

植木岳雪：平成 19 年度利尻島調査研究事業「利尻火山の溶岩の絶対古地磁気強度測定」。

産学共同研究費による研究 1件

高橋日出男：首都大学東京・東日本旅客鉄道株式会社 JR 東日本研究開発センター防災研究所共同研究「雨量計の観測値の空間代表性と降雨の集中度に関する研究」

受託事業費による研究 0件

提案公募型研究費による研究 13件

山崎晴雄：首都大学東京 傾斜的研究費（全学分）「都市地盤解明に貢献する鮮新・更新世火山灰層の対比とデータベース作成」

松本 淳：文部科学省研究開発局 地球観測システム構築推進プラン「東南アジアにおける降雨観測システムの構築」

松本 淳：科学技術振興機・戦略的創造研究推進事業「熱帯モンスーンアジアにおける降水変動が熱帯林の水循環・生態系に与える影響」(H15-20 年度)「モンスーン気候解析」

松本 淳：名古屋大学地球水循環研究センター共同研究「東南アジアにおける降水日変化特性に関する研究」

松本 淳：交流協会「東アジアモンスーン観測計画とモンスーンアジア水文気候研究計画のための日台合同ワークショップ」

松本 淳：名古屋大学地球水循環研究センター平成 20 年度共同研究「東南アジアにおける降水日変化特性に関する研究」

中野智子：鳥取大学乾燥地研究センター共同利用研究費「草原生態系の二酸化炭素交換における環境制御実験」

赤坂郁美：日本科学協会 平成 19 年度笹川科学研究助成「ENSO との関連からみたフィリピンにおける降水量の長期変動特性」

松山 洋：財団法人 とうきゅう環境浄化財団 2007 年度 多摩川およびその流域の環境浄化に関する調査・試験研究助成金「湧水温、湧出量とシリカ濃度に基づく涵養・湧出機

構の推定 - 東京都日野市の例 - 」

松山 洋: 千葉大学環境リモートセンシング研究センター 平成 19 年度共同利用研究「多方向放射観測データを用いた葉面積指数の推定」

泉 岳樹: 日産科学振興財団 平成 18 年度 環境研究助成「多方向放射観測に基づく葉面積指数の季節変化のモニタリング」

中山大地: 平成 19 年度首都大学東京 傾斜的研究費 (特定・部局) 若手「データマイニングを用いた奥多摩地域の地すべり危険地域の推定に関する研究」

長谷川宏一: 平成 18 年度笹川科学研究助成金「多方向からの放射観測データを用いて葉面積指数の季節変化をモニタリングする手法の開発」

科学研究費による研究 13件

山崎晴雄: 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)「海成段丘を切る活断層の成因と古環境・古地震学的意義の解明」

鈴木毅彦: 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)「火山灰編年法を地下地質に適用した関東平野の形成史解明」

植木岳雪: 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)「四国南東部の最終間氷期段丘面の複合編年」.

田村糸子: 文部科学省科学研究費補助金 奨励研究 B 「自然体験を進めるための火山灰データベースの作成」

三上岳彦: 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)「都市内緑地のクールアイランド効果とその規模別影響評価」

中野智子: 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)「地球温暖化に対する草原生態系の応答実験」

岡 秀一: 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)「富士山における樹木限界の動態と環境変動に関する研究」

大山修一: 文部科学省科学研究費補助金 若手研究(B)「西アフリカにおける砂漠化防止対策としての都市ゴミとシロアリ利用に関する評価・研究」

松山 洋: 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「積雪と植生が混在する地表面状態に対するリモートセンシングに関する基礎的研究」

杉浦芳夫: 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C)「レッシュ集落立地論の誕生過程とそのナチ・ドイツ国土計画論への影響に関する研究」

若林芳樹: 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)「地理情報技術を用いた人間の空間認知・空間行動の分析とその応用に関する研究」

武田祐子: 日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究(B)「GIS を利用した時空間行動分析フレームワークの構築」

財城真寿美: 文部科学省科学研究費補助金 特別研究員奨励費「東アジアにおける 19 世紀

「気象観測記録の補正均質化とその気候変動研究への応用」

7 学位論文

博士論文

坪本裕之:バブル経済期以降の東京大都市圏における業務空間の再構築 - 都市地理学におけるオフィス研究の意義についての考察 - (英文)

赤坂郁美:フィリピンにおける夏季の雨季入りと大気循環場及び SST 分布との関連(英文)

修士論文

川崎俊明:火口湖堆積物からみたイースター島における環境変遷

荒井美宇:榛名火山における後期更新世テフラ層序と分布の再検討 -

有馬貴之:東京の動物園における来園者の空間利用とその地理的性格

石崎英彦:微地形と表層堆積物からみる大姥山地すべりの地形発達

岸本 章:富山市における高齢者の外出行動とそのパターンの変化

金原慎一郎:ソウル大都市圏における鉄道駅の特徴とその地域における役割 周辺商業地の形成と交通結節の状況から

小泉 諒:東京大都市圏におけるバブル経済期以降の社会経済的構造変化が若年者の就業と生活に与えた影響

齋藤 仁:データマイニングを用いた斜面崩壊発生流域の推定と斜面崩壊の発生に関する定量的検討

佐藤 奏:テーマパークのある街の居住者特性 ~ 千葉県浦安市・新町地区を事例として ~

高橋一之:夏季の海陸風日における東京都区部の風系とヒートアイランド現象との関係について

千葉洋祐:熊谷市における風向別にみる気温と土地被覆の関係

土屋俊幸:流域における水環境・住民意識・保全活動の連環 酒匂川を事例に

栃木彩子:大都市縁辺における離島農村の存在形態とその持続性 伊豆大島の北の山地区と差木地地区の場合

長山清香:中部日本、大湫盆地における過去 30 万年間の乾湿変動 盆地堆積物の層相観察と鉱物組成分析による検出

成宮博之:水文化的手法を用いた湧水の涵養域の推定と環境の変遷による湧水の変化について 東京都日野市を事例として

畠山 久:大正三年秋田仙北地震の地震像の解明 近年の地震との比較を通じて

村岸 純:元禄関東地震・津波による房州の被害とその後の影響

村田昌則:記載岩石学的・古地磁気学的手法に基づく前期更新世白河火砕流堆積物群の層序と対比

矢加部 友:小笠原諸島の乾性低木林に展開するリュウキュウマツ個体群の動態

山田真誉:海洋酸素同位体ステージ 6 河成段丘を用いた内陸部の隆起量推定

Hoque Roxana: Investigation of hydrometeorological aspects of the 2004 flood in Bangladesh with special emphasis on Bhairab Bazar in Meghna River Basin using remote sensing, GIS and ground data.

6 特定学術研究

教育奨励寄付金による研究 2件

鈴木毅彦：特定研究寄附金「古環境復元に関わる火山灰の記載学的研究」

泉 岳樹：教育研究奨励寄付金（アジア航測株式会社）「気候システム及び地理情報化に関する研究」

受託研究費による研究 1件

植木岳雪：平成 19 年度利尻島調査研究事業「利尻火山の溶岩の絶対古地磁気強度測定」。

産学共同研究費による研究 1件

高橋日出男：首都大学東京・東日本旅客鉄道株式会社 JR 東日本研究開発センター防災研究所共同研究「雨量計の観測値の空間代表性と降雨の集中度に関する研究」

受託事業費による研究 0件

提案公募型研究費による研究 13件

山崎晴雄：首都大学東京 傾斜的研究費（全学分）「都市地盤解明に貢献する鮮新・更新世火山灰層の対比とデータベース作成」

松本 淳：文部科学省研究開発局 地球観測システム構築推進プラン「東南アジアにおける降雨観測システムの構築」

松本 淳：科学技術振興機・戦略的創造研究推進事業「熱帯モンスーンアジアにおける降水変動が熱帯林の水循環・生態系に与える影響」(H15-20 年度)「モンスーン気候解析」

松本 淳：名古屋大学地球水循環研究センター共同研究「東南アジアにおける降水日変化特性に関する研究」

松本 淳：交流協会「東アジアモンスーン観測計画とモンスーンアジア水文気候研究計画のための日台合同ワークショップ」

松本 淳：名古屋大学地球水循環研究センター平成 20 年度共同研究「東南アジアにおける降水日変化特性に関する研究」

中野智子：鳥取大学乾燥地研究センター共同利用研究費「草原生態系の二酸化炭素交換における環境制御実験」

赤坂郁美：日本科学協会 平成 19 年度笹川科学研究助成「ENSO との関連からみたフィリピンにおける降水量の長期変動特性」

松山 洋：財団法人 とうきゅう環境浄化財団 2007 年度 多摩川およびその流域の環境浄化に関する調査・試験研究助成金「湧水温、湧出量とシリカ濃度に基づく涵養・湧出機構の推定 - 東京都日野市の例 - 」

松山 洋: 千葉大学環境リモートセンシング研究センター 平成 19 年度共同利用研究「多方向放射観測データを用いた葉面積指数の推定」

泉 岳樹: 日産科学振興財団 平成 18 年度 環境研究助成「多方向放射観測に基づく葉面積指数の季節変化のモニタリング」

中山大地: 平成 19 年度首都大学東京 傾斜的研究費 (特定・部局) 若手「データマイニングを用いた奥多摩地域の地すべり危険地域の推定に関する研究」

長谷川宏一: 平成 18 年度笹川科学研究助成金「多方向からの放射観測データを用いて葉面積指数の季節変化をモニタリングする手法の開発」

科学研究費による研究 14件

山崎晴雄: 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)「海成段丘を切る活断層の成因と古環境・古地震学的意義の解明」

鈴木毅彦: 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)「火山灰編年法を地下地質に適用した関東平野の形成史解明」

植木岳雪: 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)「四国南東部の最終間氷期段丘面の複合編年」.

田村糸子: 文部科学省科学研究費補助金 奨励研究 B 「自然体験を進めるための火山灰データベースの作成」

三上岳彦: 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)「都市内緑地のクールアイランド効果とその規模別影響評価」

中野智子: 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C)「地球温暖化に対する草原生態系の応答実験」

岡 秀一: 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)「富士山における樹木限界の動態と環境変動に関する研究」

大山修一: 文部科学省科学研究費補助金 若手研究(B)「西アフリカにおける砂漠化防止対策としての都市ゴミとシロアリ利用に関する評価・研究」

松山 洋: 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「積雪と植生が混在する地表面状態に対するリモートセンシングに関する基礎的研究」

杉浦芳夫: 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「レッシュ集落立地論の誕生過程とそのナチ・ドイツ国土計画論への影響に関する研究」

菊地俊夫: 文部省科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「農山村におけるプロダクティブエイジング創生とその社会的持続性に関する地理学的研究」

若林芳樹: 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(B)「地理情報技術を用いた人間の空間認知・空間行動の分析とその応用に関する研究」

武田祐子: 日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究(B)「GIS を利用した時空間行動分析フレームワークの構築」

財城真寿美：文部科学省科学研究費補助金 特別研究員奨励費「東アジアにおける 19 世紀
気象観測記録の補正均質化とその気候変動研究への応用」

7 学位論文

博士論文

坪本裕之:バブル経済期以降の東京大都市圏における業務空間の再構築 - 都市地理学におけるオフィス研究の意義についての考察 - (英文)

赤坂郁美:フィリピンにおける夏季の雨季入りと大気循環場及び SST 分布との関連(英文)

修士論文

川崎俊明:火口湖堆積物からみたイースター島における環境変遷

荒井美宇:榛名火山における後期更新世テフラ層序と分布の再検討 -

有馬貴之:東京の動物園における来園者の空間利用とその地理的性格

石崎英彦:微地形と表層堆積物からみる大姥山地すべりの地形発達

岸本 章:富山市における高齢者の外出行動とそのパターンの変化

金原慎一郎:ソウル大都市圏における鉄道駅の特徴とその地域における役割 周辺商業地の形成と交通結節の状況から

小泉 諒:東京大都市圏におけるバブル経済期以降の社会経済的構造変化が若年者の就業と生活に与えた影響

齋藤 仁:データマイニングを用いた斜面崩壊発生流域の推定と斜面崩壊の発生に関する定量的検討

佐藤 奏:テーマパークのある街の居住者特性 ~ 千葉県浦安市・新町地区を事例として ~

高橋一之:夏季の海陸風日における東京都区部の風系とヒートアイランド現象との関係について

千葉洋祐:熊谷市における風向別にみる気温と土地被覆の関係

土屋俊幸:流域における水環境・住民意識・保全活動の連環 酒匂川を事例に

栃木彩子:大都市縁辺における離島農村の存在形態とその持続性 伊豆大島の北の山地区と差木地地区の場合

長山清香:中部日本、大湫盆地における過去 30 万年間の乾湿変動 盆地堆積物の層相観察と鉱物組成分析による検出

成宮博之:水文化的手法を用いた湧水の涵養域の推定と環境の変遷による湧水の変化について 東京都日野市を事例として

畠山 久:大正三年秋田仙北地震の地震像の解明 近年の地震との比較を通じて

村岸 純:元禄関東地震・津波による房州の被害とその後の影響

村田昌則:記載岩石学的・古地磁気学的手法に基づく前期更新世白河火砕流堆積物群の層序と対比

矢加部 友:小笠原諸島の乾性低木林に展開するリュウキュウマツ個体群の動態

山田真誉:海洋酸素同位体ステージ 6 河成段丘を用いた内陸部の隆起量推定

Hoque Roxana: Investigation of hydrometeorological aspects of the 2004 flood in Bangladesh with

special emphasis on Bhairab Bazar in Meghna River Basin using remote sensing, GIS and ground data.